

04年09月28日 ■兵庫県警へ質問状と回答

調査会では岡田和典理事が中心となり9月28日に兵庫県警に下記の質問状を提出していました。これに対し10月29日、県警から口頭で回答がありました。

(質問状)

平成16年9月28日

兵庫県警本部

本部長 巽 高英 殿

特定失踪者問題調査会

代表 荒木 和博

理事 岡田 和典

渡辺秀子さんに関する質問書

前略、平素より北朝鮮拉致問題に対し真摯な対応をいただき感謝申し上げます。

さて、北朝鮮工作員に国内で殺害されたといわれる渡辺秀子さんについてお尋ねします。「文藝春秋」2000年12月号にて石高健次氏が論文を発表、その内容を受け、渡辺秀子さんの妹である鳥海冴子さんが2003年1月、警視庁に殺人及び国外移送目的略取の罪名にて告訴したことはご承知の通りです。

また、2003年2月7日付の「夕刊フジ」においては、「秀子さんの殺害現場にいたが、別の工作員2人が殺害した。遺体を秋田、山形両県境の海岸で捨てた」との工作員証言を警察当局情報として報じています。私ども特定失踪者問題調査会でも、渡辺秀子さんのお子様である高敬美、高剛両名を「拉致の可能性が高い特定失踪者」として救出活動を続けてまいりました。

このような状況の中、今までの私達の認識を覆す内容の書物が今年4月に出版されています。川邊克朗著「拉致はなぜ防げなかったか」(ちくま新書2004年4月)です。

70頁に記載された渡辺秀子さんに関する記述を以下に抜粋します。

この間、「拉致疑惑」を捜査してきた兵庫県警のその後の調べで、渡辺さんは失踪直後に殺害されたといわれていたが、実際は一年後も生きていたことが判明。公安当局も「ご主人に会せるからと言われて北朝鮮に渡り、今も北朝鮮で生きている可能性も捨てきれない」と、事件化の難しさに苦闘の日々が続いている。

もし、この記述が正しいのであれば、渡辺さんは既に殺されているとの認識を早急に改

めねば、渡辺さんの身に大きな危害が加わると考えねばなりません。つきましては、以下の3点の質問中よりご回答をいただきたく存じます。

(1) 兵庫県警情報が正しいのであれば、なぜ鳥海さんの告訴状を受理したのか。渡辺さんが北朝鮮に渡っているのなら、なぜ未だに拉致認定されないのか。兵庫県警の調べを基に、政府に拉致認定を求める要請をしたのか。

(2) 兵庫県警情報が不確かなものであれば、なぜこのような情報を流したのか。また、この情報を漏らした捜査員に対しどのような処罰を行ったのか。

(3) この記述が出鱈目なものであれば、出版社及び著者に抗議、記述の訂正を求めたのか。日本人三人の生命に係わる重大な問題です。

早急にご回答いただきますこと、よろしく御願いたします。

草々

---

(回答要旨 文責調査会)

(1) (2)については告訴を受けて捜査中なので回答できない。

(3)については事実無根である。著者にも電話で確認したが、本人は「間接情報だが信頼できるものとの回答だった」。